

以下の事項を勘案して計画の改定を検討

1 大綱、関連計画等

- 子供・若者育成支援推進大綱〔内閣府〕(平成28年2月8日)
 全ての子供・若者が健やかに成長し、全ての若者が持てる能力を生かし自立・活躍できる社会の実現を総がかりで目指す。
- 重点政策方針2019「未来への投資～人が輝く東京に向けて～」
 人と人を繋ぐ～人と人の結びつきを深め、誰もがいきいきと活躍し、チャレンジできる都市の実現に向けた政策の展開
- 主な関連計画 (※下線部は、今年度策定・改定予定)

【所管局】計画名	位置付け
【教育庁】 東京都教育ビジョン (第4次)	○東京都教育委員会が定める施策展開の基本的な方針で、都の「教育振興基本計画」として位置付け国が定めた「第3期教育振興基本計画」を参酌するとともに、都知事が定めた「東京都教育施策大綱」とも基本的な方針を共有
【福祉保健局】 <u>東京都子供・子育て支援総合計画</u> 東京都ひとり親家庭自立支援計画 <u>東京都社会的養育推進計画 (仮称)</u> 東京都障害者・障害児施策推進計画	○都における子供・子育てに関する総合計画として、子ども・子育て支援法に基づく都道府県子ども・子育て支援事業支援計画と次世代育成支援対策推進法に基づく都道府県行動計画、子どもの貧困対策の推進に関する法律に基づく都道府県子供の貧困対策計画とを併せて一体的に策定 ○母子及び父子並びに寡婦福祉法に基づく自立促進計画 ○改正児童福祉法等を受け、厚生労働省子ども家庭局通知「都道府県社会的養育推進計画の策定について」に基づき、里親養育支援など社会的養育の充実・強化を図るための計画 ○障害者施策に関する基本計画としての障害者計画(根拠：障害者基本法)と、障害福祉サービスの提供体制の確保等に関する計画である障害福祉計画(根拠：障害者総合支援法)、障害児通所支援等の提供体制の確保等に関する計画である障害児福祉計画(根拠：児童福祉法)の3つの性格を併せもつ計画
【生活文化局】 東京都男女平等参画推進総合計画	○男女共同参画社会基本法に定める男女共同参画計画 東京都男女平等参画基本条例に基づく行動計画
【産業労働局】 東京都職業能力開発計画	○職業能力開発促進法に基づき、国の第10次職業能力開発基本計画を受けて策定する、都における職業能力開発に関する基本となる計画

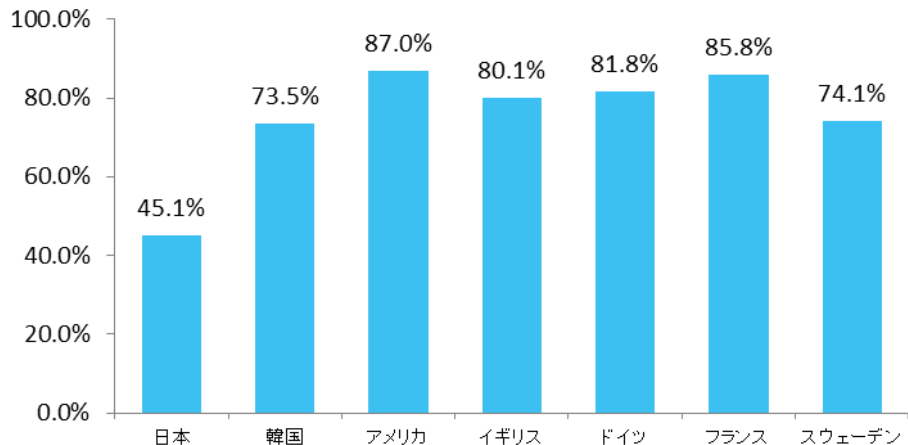
2 現代の若者像①

〔内閣府「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」(平成30年度)〕

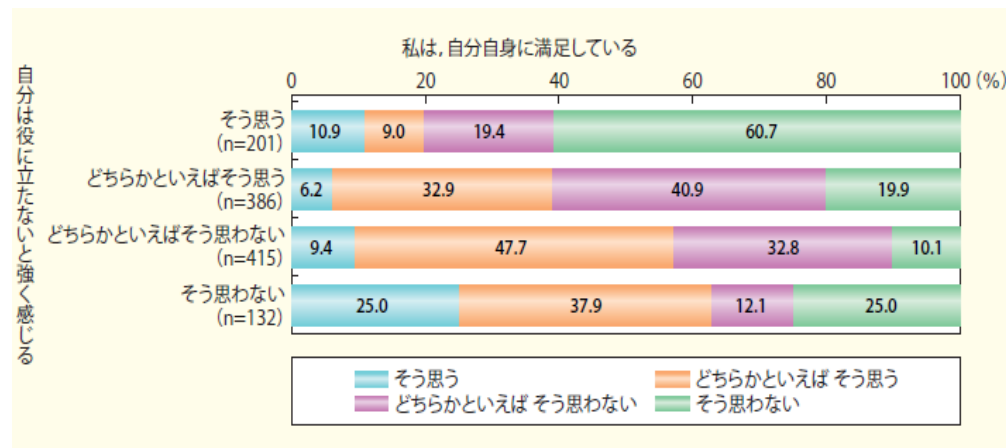
・日本の若者は、諸外国の若者と比べ、自分に満足している割合が低い傾向。

・日本の若者は、自分が役に立たないと強く感じている者ほど自分自身に満足している割合が低い。

図表1 自分自身に満足している若者(諸外国比較)



図表2 自分自身への満足感と自分は役に立たないと強く感じるの関係性



※「自分自身に満足しているか」との問いに対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した者の合計
【出典】令和元年度版 子供・若者白書

※日本の若者の「私は、自分自身に満足している」の回答と「自分は役に立たないと強く感じる」の回答をクロス集計したもの
【出典】令和元年度版 子供・若者白書

○ 考察

・日本の若者は諸外国の若者と比べて、自分自身に満足しているなど、自身を肯定的にとらえている若者の割合が低い傾向にあり、こうした自己肯定感の低さには自分が役に立たないと感じる自己有用感の低さが関わっている。
(内閣府 令和元年版 子供・若者白書 「特集1 日本の若者意識の現状～国際比較からみえてくるもの～」より)

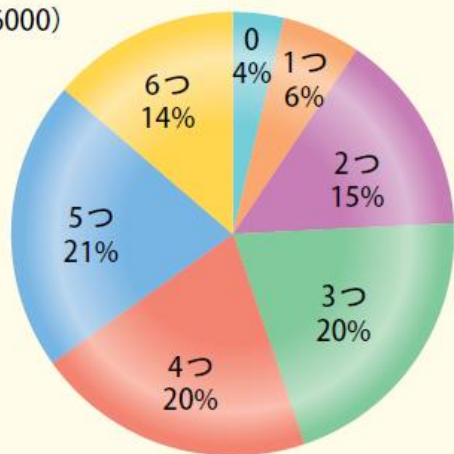
2 現代の若者像②

〔内閣府「子供・若者の意識に関する調査」(平成28年度)〕

・6つの場所(自分の部屋、家庭・学校・職場・地域、インターネット空間)について、自分の居場所であると感じている数を調査したところ、居場所が3つ以上あると回答した者は全体の約75%を占める。

図表3 居場所と思う場の数

全体 (n=6000)

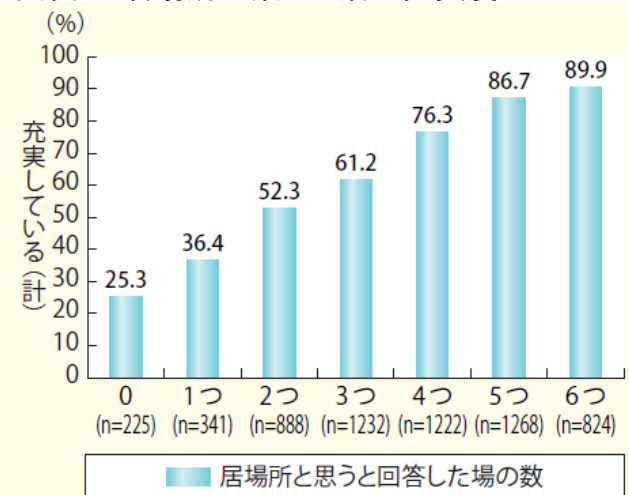


(注) 居場所になっていると思うかをたずねた質問に対し、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」の回答を合わせた数を計上。

【出典】平成29年版 内閣府 子供・若者白書

・6つの場について、いずれも居場所になっていると思うと答えなかった者(居場所が0の者)で生活が充実していると回答した者の割合は最も低く、全て居場所になっていると思うと答えた者(居場所が6つの者)で充実していると回答した者の割合は最も高い。

図表4 居場所の数と生活の充実度



(注) 6つの場について居場所になっていると思うかをたずねた質問に対し、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と回答した場の数別に、現在の生活について「充実している」、「どちらかといえば充実している」と回答した者の割合。

【出典】平成29年版 内閣府 子供・若者白書

○ 考察

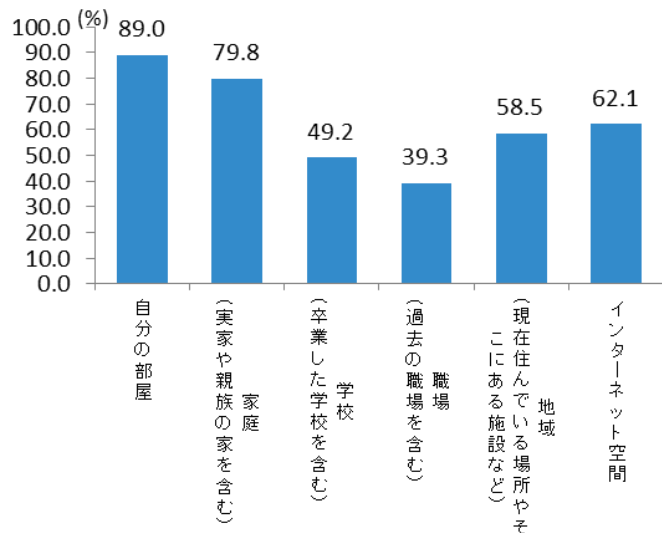
・居場所であると感じている場の数が多くなるにつれ、生活が充実していると回答した者の割合が高くなっている。
(平成29年版 内閣府 子供・若者白書「若者にとっての人とのつながり」より)

2 現代の若者像③

〔内閣府「子供・若者の意識に関する調査」(平成28年度)〕

・居場所を6つの場に分け、自分の居場所と思うかたずねた質問に対する回答は、自分の部屋が89.0%、家庭が79.8%とそれぞれ比較的高い割合を占めている。

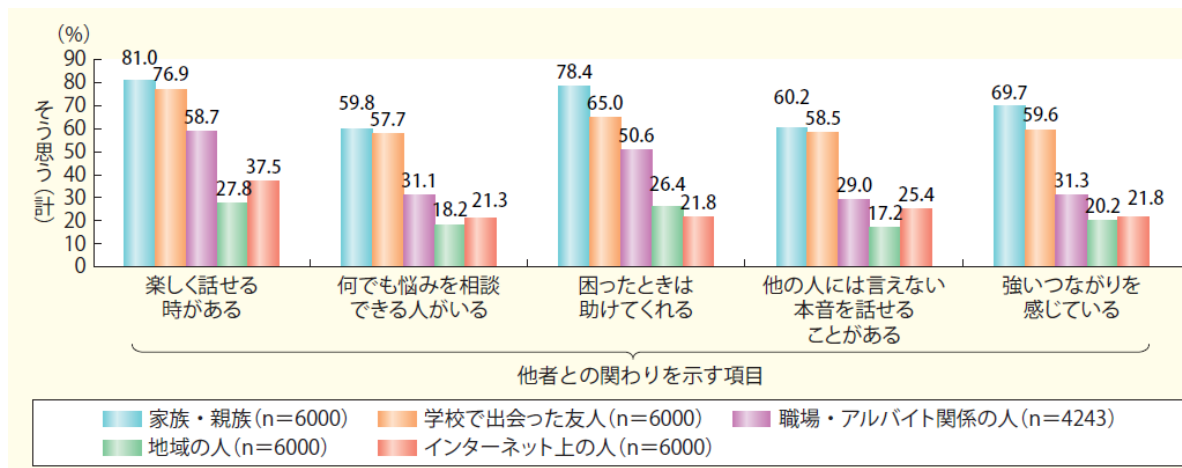
図表5 居場所の有無



【出典】平成29年版 内閣府 子供・若者白書

・家庭・親族と、学校で出会った友人との間に、楽しく話したり、悩みを相談したり、助け合ったり、本音を言ったりするなどのつながりの強さを感じている若者の割合が大きい。一方で、地域の人とインターネット上の人との間ではつながりの強さを感じている若者の割合はそれほど大きくないことがわかる。

図表6 強いつながりを感じている対象



(注)「そう思う(計)」は、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」の合計。

【出典】平成29年版 内閣府 子供・若者白書

○ 考察

・若者が成長し自立する過程では、誰もが悩みを抱えたりつまずきを覚えたりすることがあるが、その際に大事なものは、ひとりで問題を抱え込み困難な状況に陥ってしまうことを防ぐことである。そのためには、普段から、家庭の他にも自分がほっとできる居心地の良い場所を持つとともに、何かあった時にささえとなってくれる人との関わりを築いておくことが大切であると考えられる。

(平成29年版 内閣府 子供・若者白書「若者にとっての人とのつながり」より)